

# 第 7 章

## 調査対象者の プロフィール

# 1. 子どもの属性

## 1. 子どもの性別

子どもの性別の割合は、「男子」が 52.8%、「女子」が 47.2%であった。

## 2. 子どもの年齢

子どもの年齢は、全体の平均が 3.5 歳となった。年齢の分布は、概要 (p.4) で示した通り、0 歳が 3.0%、1 歳が 9.5%、2 歳が 15.0%、3 歳が 19.8%、4 歳が 20.2%、5 歳が 23.6%、6 歳が 7.9%、7 歳以上が 1.1%となっており、3 歳から 5 歳までが全体の約 6 割を占めている。

## 3. 子どもの出生順位

子どもの出生順位は、第 1 子が 62.1%、第 2 子が 28 %、第 3 子以降が 9.9%であった。出生順位別の子どもの年齢は、第 1 子が 5.5 歳、第 2 子が 3.8 歳となっていた。

## 4. 子どもの人数と同居家族数

調査回答者の家庭の子どもの人数は、平均 1.73 人 (SD=0.81) である。上位 11 カ国の国籍別で見た子どもの人数は次のようになった。

「日本」 1.74 人 (SD=0.80)

「中国」 1.52 人 (SD=0.63)

「台湾」 1.81 人 (SD=0.71)

「韓国」 1.94 人 (SD=0.94)

「朝鮮」 2.28 人 (SD=0.94)

「タイ」 1.74 人 (SD=0.74)

「フィリピン」 1.96 人 (SD=0.96)

「ベトナム」 1.82 人 (SD=0.77)

「ブラジル」 1.55 人 (SD=0.77)

「ペルー」 1.57 人 (SD=0.57)

「アメリカ」 1.83 人 (SD=0.91)

「朝鮮」は、滞在年数が 20 年以上の人が 100%であったので、日本人のデータと類似することが予想されるが、予想に反し最も多い 2.28 人となった。最も少なかったのは、「中国」で 1.52 人であった。

同居家族人数は、平均で 3.85 人 (SD=1.12) となった。3 世代同居率は、父方の母親との

同居が 4.5%で最も高かった。

## 5. 子どもの滞在年数 (図 7-1)

子どもの日本での滞在年数は、3 年が最も多く 19.3%、次いで 5 年が 18.1%、2 年が 17.9%、4 年が 16.5%であった。年齢の分布と比べてみると、分布の形は類似している。

## 6. 子どもの就園状況と学年

子どもの就園状況は、「通園している」が 97.7%、「通園していない」が 2.3%であった。通園している子どものうち、保育園に通園している子どもが 93.1%、幼稚園に通園している子どもが 6.9%であった。

3 歳から 5 歳までの子どもは保育園か幼稚園のいずれかに通園していた、その内訳を全体の割合を見ると、3 歳では保育園が 16.9%、幼稚園が 1.1%、4 歳では保育園が 18.8%、幼稚園が 2.0%、5 歳では保育園が 20.4%、幼稚園が 3.1%となった。図 7-2 には、3 歳から 5 歳までは、幼保を合わせた学年で示している。年齢とほぼ同様の分布がみられた。

通園している子どもの 93.1%が保育園であること、0 歳児保育などの低年齢保育を受けている子どもも一定の割合でいることから、集計結果の園での生活のほとんどは、保育園での生活を指すことになる。

図7-1 子どもの滞在年数

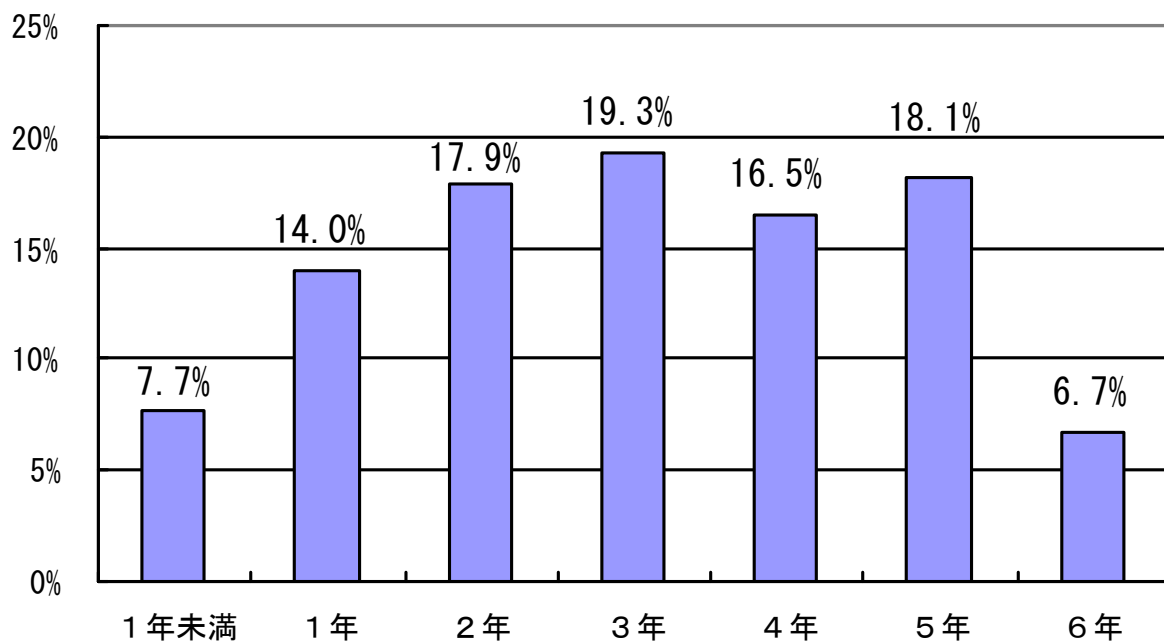
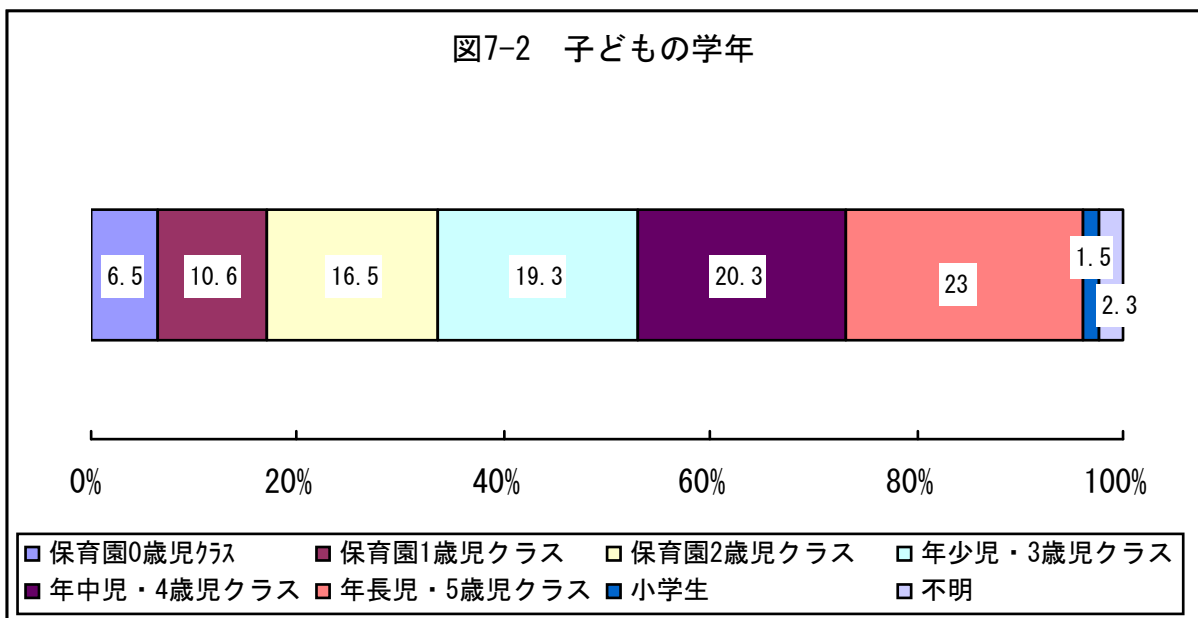


図7-2 子どもの学年



## 2. 保護者の属性

### 1. 父母の年齢

父母の年齢分布を、図7-3に示す。最も人数の割合が高い年齢は、父親では37歳、母親では30歳、次に32歳である。平均年齢は、父親が37.1歳、母親が33.4歳となっている。全体的には、日本人の父母の年齢分布と大きく違ってないが、父親の年齢で50歳以上の人が6.6%を占めているのが特徴的である。

### 2. 保護者の続柄

保護者の続柄は、概要(p.4)に示した通り、母親が83.2%、父親が16.0%、その他の親族が0.8%であった。調査対象者には、国際結婚の家庭も多く含まれ、母親が日本人で父親が外国人の家庭に対し、母親に調査用紙が配られているケースも含まれている。

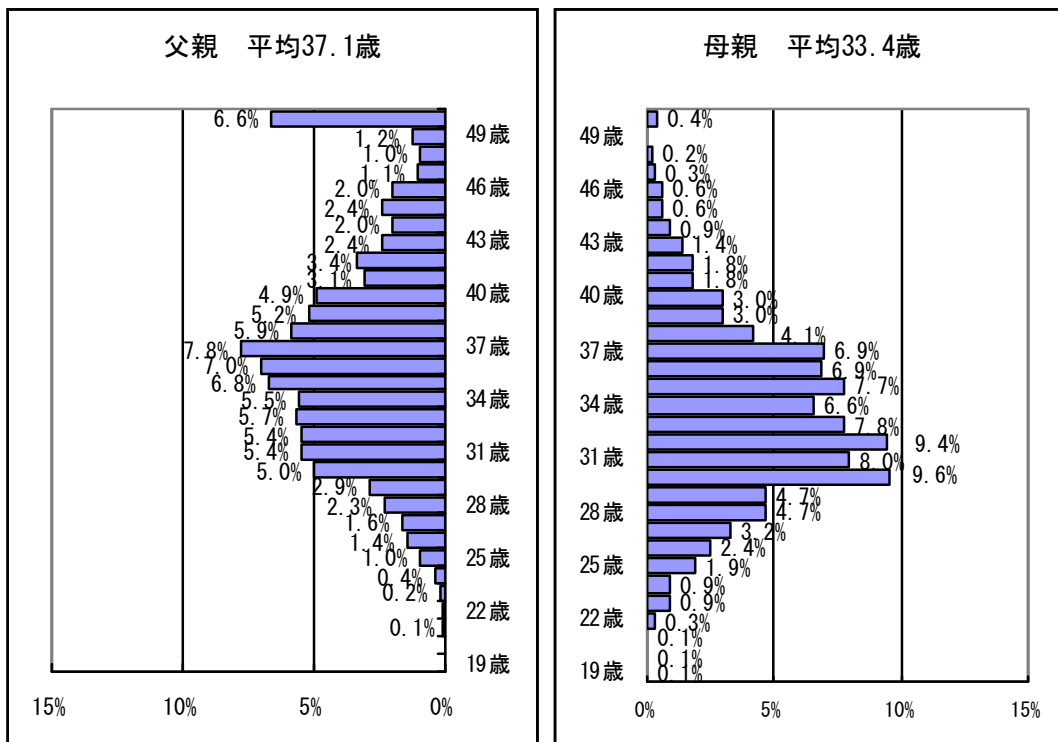
### 3. 保護者の国籍 (p.5 表1-3)

「対象者の要約」の章の属性の抜粋で示した国籍は、父母の上位11カ国とその他の国

の父母の国籍の組み合わせである。

保護者の国籍は、65か国に及び、アジア、太平洋諸国、オセアニア、中東、ヨーロッパ、アフリカ大陸、アメリカ大陸と広域にわたっていた。上位から、中国28.5%、韓国15.8%、日本14.7%、フィリピン10.2%、台湾3.2%、ブラジル3.2%、タイ2.5%、ペルー2.0%、朝鮮2.0%、ベトナム2.0%、アメリカ1.5%、その他16.9%となっている。父親、母親共に日本国籍の割合が6.4%となっているが、この場合は父親、母親ともに来日後に日本国籍を取得した者、または父親か母親のどちらかが日本人で、日本人の配偶者として在留した後に日本国籍を取得した人の組み合わせなどと考えられる。回答者が日本国籍の場合でも、使用した調査票が中国語であるケースが少なからずみられたこと、また、在日理由に中国残留孤児の子孫というケースも若干含まれていたことなどからも、日本国籍を持ちながら日本語を母語としない人が含まれていることが推察される。

図7-3 保護者の年齢分布



### 1) 国際結婚の割合と国籍

父親が日本国籍の割合は36.1%、このうち母親が外国籍の組み合わせは29.7%であった。母親が日本国籍の割合は22.5%、このうち、父親が外国籍の組み合わせが16.1%であった。日本人と外国籍の人との国際結婚の割合は、45.8%となる。父親が日本国籍の場合、上位にあげられる母親の国籍は、中国10.4%、フィリピン9.2%、日本6.4%、韓国3.6%、タイ2.4%、台湾2.3%の順であった。母親が日本国籍の場合、上位にあげられる父親の国籍は、日本6.4%、中国3.8%、アメリカ2.2%、韓国2.0%の順であった。

### 2) 同国籍の結婚の割合

両親ともに同じ国籍の組み合わせでは、上位にあげられる国籍は、中国18.5%、韓国11.6%、日本6.4%の順であった。

## 4. 保護者の就労状況 (表7-2, 3, 4)

### 1) 回答者の職業

回答者の職業は、表7-1に示すように全体では、常勤が45.5%、パートタイマーが43.3%、家事専業が11.3%となっており、母親と父親では、常勤は父親の方が多く、パートタイマーは母親の方が多く、家事専業も母親の方が多い。滞在年数でみていくと、常勤の割合は母親も父親も年数が増すごとに高くなっている。パートタイマーは、母親については40%代から50%代にかけて割合が一定であるが、父親は年数が増すごとに低くなっている。

### 2) 保護者の職種

職種は表7-3, 4に示しているが、2つを合わせて回答者が母親の場合は、配偶者が父親、回答者が父親の場合は配偶者が母親であることを踏まえて、集計表を見ていただきたい。

回答者が母親の場合、滞在年数でみると、自営業、会社員、販売・サービスが滞在年数が増すほど割合が高くなっているが、技術・労務、学生・研究者、無職・家事専業は滞在年数が増すほど割合が低くなっている。配偶者である父親は、滞在年数が増すごとに会社員の割合の増加が著しく、自由業、学生・研究者、無職・家事専業の割合が低下してい

る。

回答者が父親である場合は、滞在年数が増すごとに、自営業、会社員の割合が高くなっており、販売・サービス、技術・労務、自由業、学生・研究者の割合は低くなっている。配偶者である母親で見ると、配偶者が父親のケースと異なっているのは、滞在年数が短い場合でも、会社員の割合が高いことと、0~3年未満の学生・研究者の割合が高いことがあげられる。

## 5. 言語環境

家庭で使っている言葉と日本語能力については、概要(p7-8)で述べているので、こちらを参照していただきたい。日本語については、8割近くの保護者が日本語ができると回答し、滞在年数が長いほど日本語を使う割合が高く、国際結婚の家庭の方が、同国籍の結婚の家庭より日本語を使う割合が高い。

なお、今回の調査での調査用紙の使用状況は表7-1の通りである。

表7-1 調査用紙の使用言語

調査票言語	度数(人)	%
日本語	575	28.7
中国語	552	27.6
ふりがなつき日本語	211	10.5
韓国・朝鮮語	174	8.7
タガログ語	159	7.9
英語	126	6.3
ポルトガル語	67	3.3
スペイン語	48	2.4
ベトナム語	46	2.3
タイ語	34	1.7
カンボジア語	9	0.4
ラオス語	1	0
合計	2002	100

保護者の日本での滞在年数は、概要 (p 6) でも示してあるが、全体では滞在 20 年以上の人を除き、平均 7.3 年 (SD3.83 年) であった。今後の滞在予定年数は、全体では、「これから一生」が 39.8%、「これから数年」の人が 10.8%、「未定」の人が 49.4% であった。「これから数年」と回答した人の予定年数は、4.6 年であった。国籍別では、多いほうから (3 年以上の予定のみ)、タイ 9.5 年、フィリピン 8.0 年、中国 6.6 年、日本 6.3 年、台湾 6.0 年、ブラジル 3.8 年、アメリカ 3.4 年、韓国 3.0 年となっている。

滞在年数別では、表 7-5 に示す通り、滞在年数が増すほど、「これから一生」と回答している人の割合が増え、反対に「これから数年」と回答している人の割合が減少している。滞在の理由については、全体では「結婚した」が 32.2%、「仕事」が 25.5%、「家族の世話」が 13.3%、「生まれた国」が 11.1%、「留学・勉強」が 5.9% という順になっている。滞在年数によって、理由に違いがあるかどうかを見ると、表 7-6 に示す通り、滞在 20 年以上では、「生まれた国」が 82.6% となっており、20 年未満の人と大きな違いがある。

20 年未満の人の理由をしてみると、0-3 年未満では、「仕事」、「結婚した」、「家族の

世話」、「留学・勉強」の順であるが、3-10 年未満、10-20 年未満では、「結婚した」、「仕事」、「家族の世話」、「留学・勉強」となっており、3 年以上の人の日本滞在のきっかけが「結婚した」にあったとうかがえる。

## 7. 滞在年数と日本語能力

この報告書では結果の集計にあたり、滞在年数を 0-3 年未満、3-10 年未満、10-20 年未満、20 年以上の 4 つのカテゴリーを使って集計・分析を行っている。日本語ができるかできないかによって、多文化保護者が日本の生活で感じる不安の程度や起こりうる問題への対処の方法が異なるものと推察され、ひとつの分析の視点となる。日本語能力と滞在年数は個人差があるので、滞在年数が短くても日本語ができる人はいるが、長くなるほど日本語ができるようになるのが一般的傾向である。また、日本に住んでいる年数が長いほど日本のシステムに理解があるとすれば、滞在年数もまた、ひとつの尺度として分析の視点となる。滞在年数と日本語能力を  $\chi^2$  検定で関連を調べたところ、0.01% 以下の有意な水準で、滞在年数が短いほど、日本語能力が低いと判断しているという結果が出た。 ( $\chi^2 (9) = 570.30, p < .0001$ )

表7-5 今後の滞在予定

	これから数年(年数)	これから一生	未定
0~3年未満	33.5% (2.72年SD1.81)	17.2%	49.3%
3~10年未満	10.3% (5.61年SD6.88)	36.2%	53.5%
10~20年未満	4.7% (7.2年SD8.24)	42.9%	52.4%
20年以上	4.6% (4.13年SD3.61)	70.2%	25.2%
全体	10.8% (4.64年SD5.77)	39.8%	25.2%

表7-6 日本に滞在している理由

	0~3年未満	3~10年未満	10~20年未満	20年以上	全体
仕事	29.0%	28.6%	33.4%	11.0%	27.5%
留学・勉強	16.9%	6.2%	3.2%	0.0%	5.9%
結婚した	21.3%	39.2%	38.1%	2.8%	32.2%
家族の世話	20.8%	15.5%	10.7%	0.0%	13.3%
生まれた国	1.4%	0.6%	0.9%	82.6%	11.1%
残留孤児の子孫	1.9%	3.4%	3.9%	0.5%	2.9%
その他	8.7%	6.4%	9.9%	3.2%	7.1%

### 3. 保護者の自由記述意見から

今回の調査で、文化的・言語的に多様な背景を持った保護者達の生の声を聞く目的で、調査用紙の最後に「日本での子育てについての意見」を自由に書いてもらった。この項目の自由記述意見は、保護者がフリーに母語や普段使い慣れている言葉で書いたものであり、そのすべてを日本語に翻訳し、その一部をここに紹介する。

#### 1. 全体のコーディング集計結果（図 7-4）

自由記述意見を内容ごとにコーディングし、集計した結果、次の内容の記述が多かった。総記述数は 614 件であった。

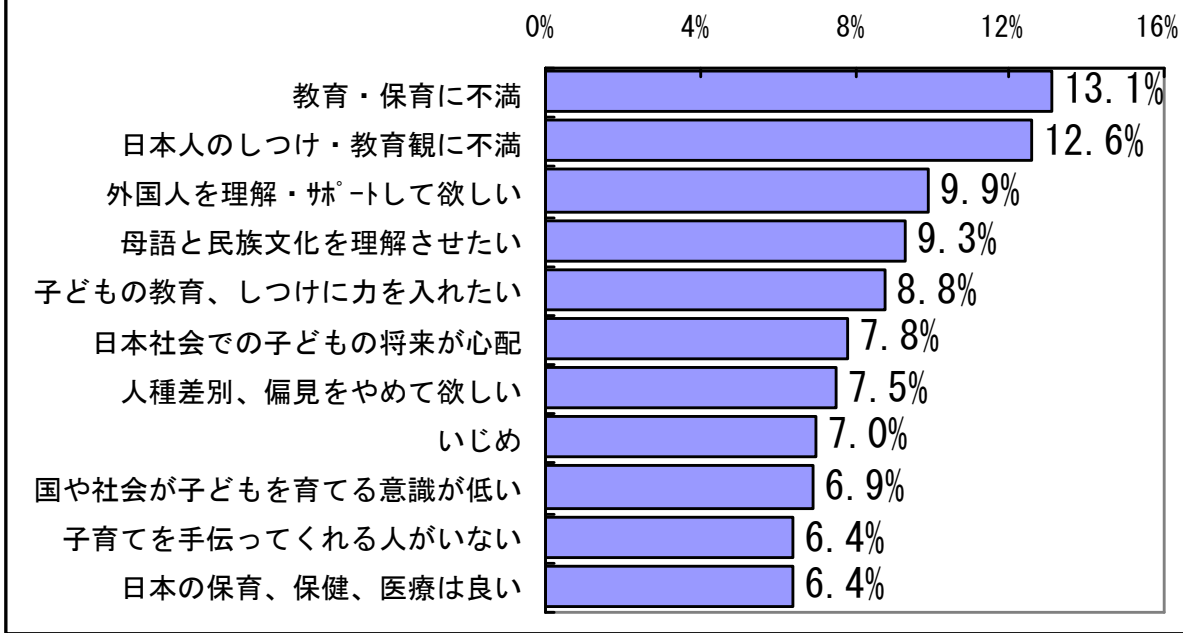
- ・ 保育態度（乱暴な子が野放しなど）やシステム（参加行事が多いなど）が不満。（13.1%）
- ・ 日本人のしつけ・教育観に不満や不安がある。（12.6%）
- ・ 外国人への理解を深め、通訳やサポートをして欲しい。（9.9%）
- ・ 母語と民族の文化を理解させたい。知る機会がないし、忘れてしまう心配がある。（9.3%）
- ・ 子どもの教育・しつけにもっと力を入れたい。（8.8%）
- ・ 日本社会での子どもの将来が心配。（7.8%）
- ・ 人種差別・偏見をやめてほしい。（7.5%）
- ・ 子どもがいじめられている、いじめられるのではと心配。（7.0%）
- ・ 国や社会が子どもを育てる意識が低いと思う。（6.9%）
- ・ 日本での子育ては手伝ってくれる人がいないので大変。（6.4%）
- ・ 日本の保育・保健・医療現場は充実していてよい。（6.4%）

#### 2. 自由記述内容の滞在年数による量的変化

本報告書の第 2 章から第 7 章までに述べたように、園生活での気がりや、子育て生活の気がり、育児不安、育児情報ネットワークには、滞在年数によって内容が変化している。自由記述に書かれている内容も、滞在年数による特徴があるものと予想できる。滞在年数が長くなるほど増えるものと減るもの、また第 4 章で結果が出されたように 3～10 年未満の滞在が一段落して改めて浮上してくる問題の 3 つの枠で上位にあげられるものを中心に次に示す。

- 1) 滞在年数が長くなるほど記述量が増えるもの（図 7-5）
  - ・ 日本人のしつけ、教育観に不満
  - ・ 日本社会での子どもの将来が心配
  - ・ いじめ
  - ・ 国際理解教育、歴史教育の必要性
  - ・ 日本の国籍、日本での確かな自分の位置
- 2) 滞在年数が長くなるほど記述量が減るもの（図 7-6）
  - ・ 子育て情報が欲しい
  - ・ 忙しくて子どもに手をかけられない
  - ・ 日本人の親達との交流
  - ・ 自分の日本語能力の不安
  - ・ 子どもの日本語能力を向上させたい
  - ・ もっと外国人を理解して欲しい
- 3) 滞在年数が 3～10 年未満で増え、その後減少するもの（図 7-7）
  - ・ 教育・保育態度システムに不満
  - ・ 母語と民族の文化を理解させたい
  - ・ 日本の保育、保健、医療現場は良い

図7-4 自由記述意見が多かった内容



総自由記述数 614

図7-5 自由記述意見と滞在年数（増すごとに増える内容）

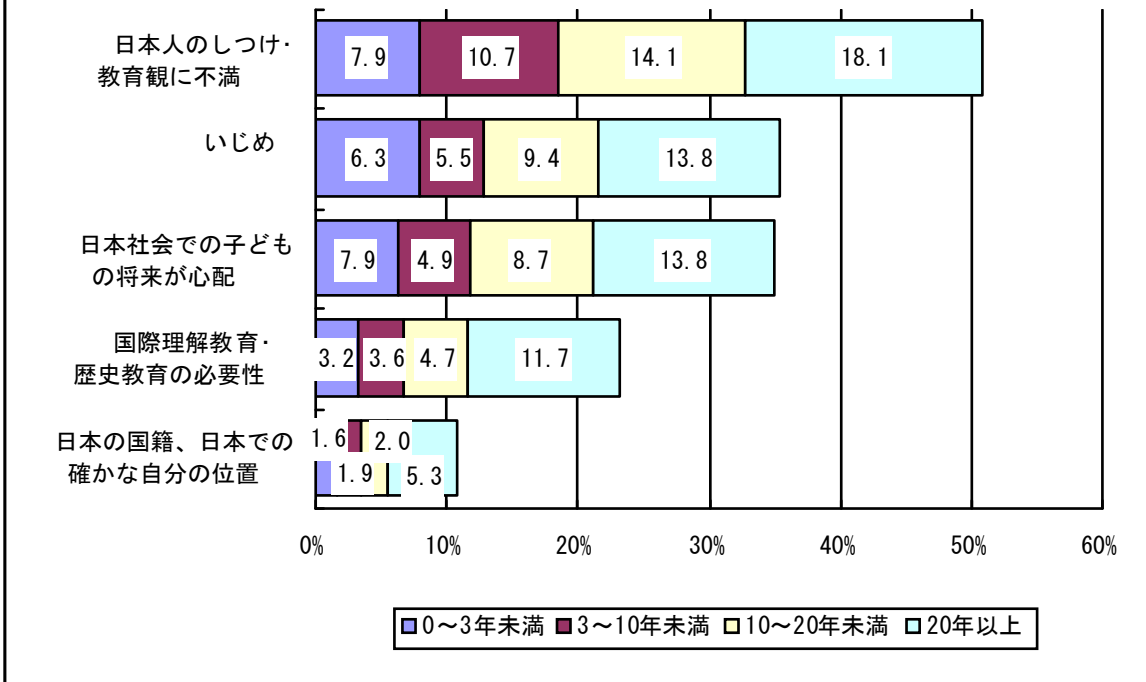




図7-6 自由記述意見と滞在年数（増すごとに減る内容）

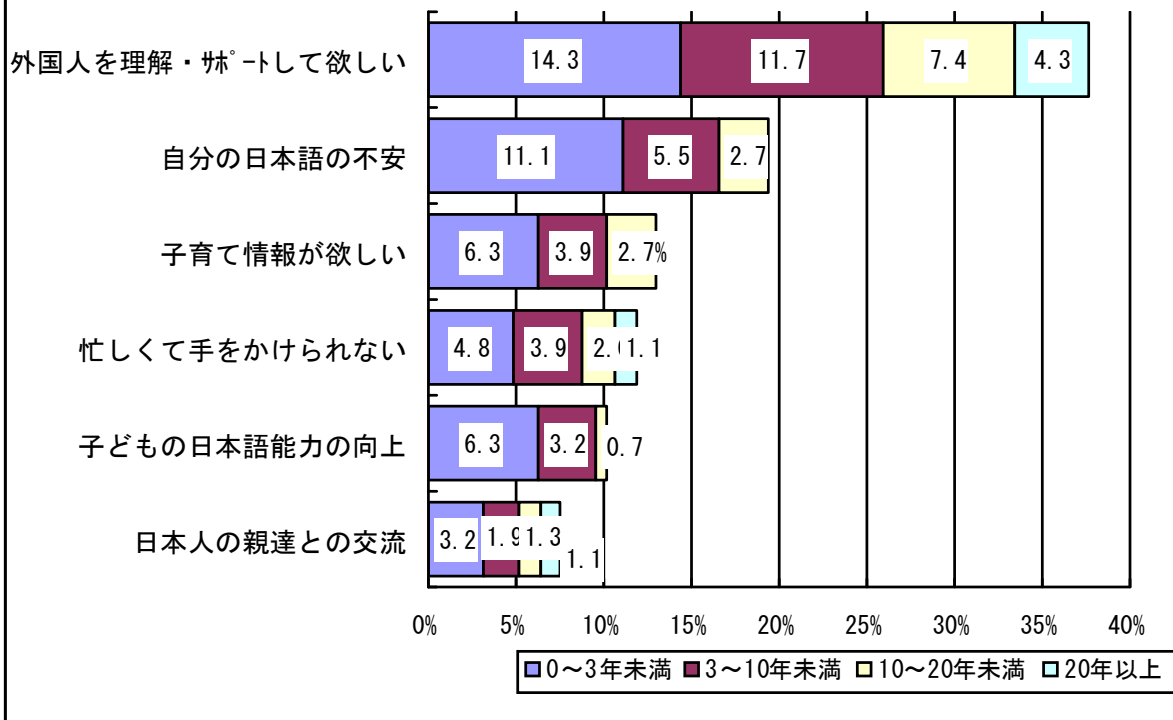
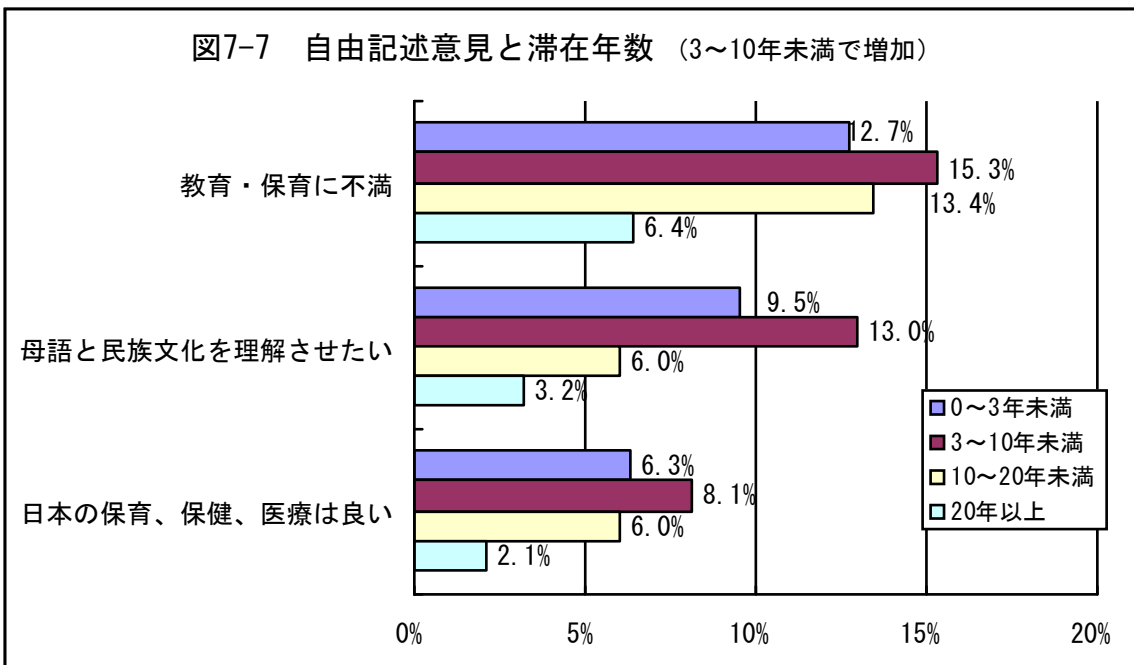


図7-7 自由記述意見と滞在年数（3～10年未満で増加）



## 母語・民族文化の教育に対する希望と現状

「日本に住んでいるので、日本の学校に通わせてもいいと思うが、母国語、母国の文化や生活を教えるにはやはり母国の学校が適していると思う。しかし、朝鮮学校へは国の援助が少ないので経済的負担がある。(保4女・母33歳・朝鮮・33年)」

「韓国式に礼儀などを教えたいが、他の子どもたちの影響が大きく、言葉遣い、態度、全てのことが難しいと感じる。(保5女・母40歳・韓国・5年)」

「早く日本語を覚えて欲しいので、日本語の読み書きを簡単なものでいいから教えて欲しい。国際言語である英語も読み書きを教えて欲しい。(保5男・父39歳・ミャンマー・5年)」

「子どもが他の子どもと仲良くして欲しいです。友達と遊ぶとき、いろいろなことを勉強するのは大切です。家で中国語を教えるつもりで、中国の文化など子どもに理解させたいです。(保2女・父31歳・中国・3年)」

「子どもはだんだん大きくなって、日本語も上手になってきました。それに対して、自分をもっと日本語を勉強して将来子どもとうまく交流できるようにしたいです。でも、中国人なのに、子どもが中国語ができなければ、恥ずかしいことだと思います。(保4男・母31歳・中国・8年)」

## 言葉の違いによる不便や不安

「子どもが病気の際に病院に通うのが一番しんどかった。出産の時も日本語がわからなかった。(保3男・母30歳・韓国・13年)」

「子どもが他の子どもの勉強に追いついていくために、私は日本語ができないのでそれを助けることができないのが心配だ。(保5女・母28歳・日本・3年)」

「私の日本語は下手で、子どもは中国語を話せないなので、話し合うことが難しいです。このことが原因で子どもとの関係は冷たいと感じています。ですから、子どもが日本語を話せるようになるのと同時に、ある程度の中国語の勉強をして欲しい。(保1女・父29歳・中国・8年)」

「私は日本に来る前に勤めていましたが、結婚してから日本に来ました。最初は家で子どもの世話と家事をするだけで、日本語を上達させることはなかなかできませんでした。育児と家事で時間がありませんが、休日を利用していますがうまくいきません。もし子どもが大きくなって手が離れて、仕事をしたいときに日本の社会に外国人の主婦を受け入れることができるのでしょうか。(保2男・母31歳・13年)」

「私の子どもは大変優しくよく私の言うことを聞きます。彼にはたくさんのお友達がいます。私も同じようにたくさん日本人の友達がいます。私の唯一の問題は、子どもが私に日本語で何か説明して欲しいと言ったときに、上手に日本語で言い表すことができないことです。(保2男・母25歳・フィリピン・3年)」

## 園生活について

「保育園に行くようになり友達がたくさんでき、はずかしさも少なくなり、子どもが活発で明るくなった。(保2男・母30歳・韓国8年)」

「日本人が子どものことを大切に考えていてとても感心している。私は先生が私の子どもをよく世話をしてくれるので、とても安心している。ありがとうございます。(保2男・母42歳・タイ・9年)」

「担任の先生が私の子どものお世話を良くして下されば、私はすごく感謝します。特に、冬は私の子どもには困ることが多いです。(保2男・母32歳・日本・12年)」

「先生方の中で全く意地の悪い人たちがいて微笑みかけてもくれないのですが、それを先生方にお伝えするべきでしょうか。6時を過ぎているときは、先生方は子どものお世話をしていないように見えます。私の子にはおやつも与えてくれません。(保2男・母)」

「今子どもが主に遊ぶところは保育所です。私は自分の子どもが保育所で外国人としていじめられて、ひとりぼっちにならないかを心配しています。保育園の先生は外国人の子どもにもっと気配りをして欲しい。(保3女・父)」

「私は保育所にいても、よく子どもに中国語で話しかけます。理由は、子どもが中国語の環境に慣れ、できるだけ中国語を勉強できること、周りの日本人も外国人のことに慣れるようにするためです。(保4女・母35歳・中国・5年)」

## 子育て生活について

「周りに知り合いがないので、子どものことや趣味に関する情報を得るのが難しい。市役所に行ってみるが、遠いし交通の便が悪い。1人で子どもを育てているのが色々な面で難しく心寂しい。(保4女・母31歳・韓国・9年)」

「保育園以外に家の周囲で友達をつくるのが難しい。外へ出て遊ぶ子どもが少ないし、親同士親しく付き合うことを避けているようだ。(保2女・母31歳・韓国・6年)」

「度の過ぎた自由。日本で子どもを育てるのはほとんどお母さん。ベトナムでは、両方が子育てをするし、お父さんの方が良くしている。(保5女・母36歳・ベトナム・10年)」

「日本人である夫が子育てに無関心。周りにも相談する相手がない。夫側の親戚も冷たい。そのため自分自身が強くなってしまい、虐待事件を起こすのも不思議でなくなる。日本での子育ては最悪。(保5男・母38歳・朝鮮・38年)」

「上の子の時が一番大変です。いつも新しいことばかりで、下の2人については今までしてきたことの繰り返しだから少しは楽です。(保2男・父38歳・ペルー・10年)」

「2番目の子どもはしょっちゅう病気をするので、定期的な仕事には付きません。幼稚園が少しぐらいの熱がある時でも受け入れてくれるとありがたいのですが、2番目の子どもが行っている幼稚園はなかなか妥協してくれません。(保1男・母31歳・フィリピン・10年)」

「義理の母と一緒に住んでいて、私を知る必要のあることは何でも教えてくれます。(保2男・母38歳・フィリピン・6年)」

## しつけ・教育観の違いへの戸惑い

「母国では子どもの早期教育がさかんに行われているため、このままでは帰国後子どもが遅れていると思われるので、このことが最も不安である。(保3女・母32歳・中国・6年)」

「少し画一的である。社会全体が物質優先で心の豊かさが足りない。(保5男・父35歳・中国・13年)」

「しつけの多くは親や先生の便宜のためだと思う。“何でも自分でやる”ということはそれほど重要ではないと思う。(幼長男・母35歳・中国・9年)」

「日本式のしつけや子どもを教育するやり方は、フィリピンで私が育った方法とは異なります。今は日本に住んでいますから、このような違いには堪えなければならないのでしょうか。(保5男・母33歳・フィリピン・9年)」

「日本人にとって、子育ては一種の義務で、大人になるまできちんとしつけ、育てなければならないという印象があります。大人になれば、もうその子の人生だからどう歩むかは自由。確かにそうかもしれませんが、親子のきずなはいつまでも薄れてはいけません。日本人の子どもは、大人になるほど親との会話も少なくなり、関わりも少なくなるのが大半です。日本で育てられた中国人の子どもも、日本人の子どものようになるのを何人も見してきました。私にとって親と話したくない、関わりたくないということは考えられないことであって、自分の子どもにそういうふうになって欲しくありません。子育ては環境が一番なので、そのうち中国へ連れて帰ります。(保5男・母32歳・日本・15年)」

## 多文化への理解をもとめて

「タイ語やタイの習慣などを家族や親戚に伝えたい。親戚にはもっと暖かく接して欲しい。(保5女・父34歳・タイ・6年)」

「人種差別をなくす教育は、各家庭でやってもらうのは難しいので、行政や学校での取り組みを強く求める。(保3女・母29歳・日本・10年)」

「キリスト教の外国人に日本の園はとてやりにくい。異教の祭り(七夕や豆まき)に強制的に参加させられる。(保4男・母36歳・ブラジル・9年)」

「教育に関して日本は素晴らしいと思うが、まだまだ差別が多い。“外人”の子どもと自分の子どもを遊ばせないようにしている母親が多い。(保5男・母35歳・ブラジル・2年)」

「保育園に関するお知らせが全部英語で翻訳してあるとよくわかるので、それを望みます。日本人は外国人を差別しないで欲しいと思います。(保3男・母36歳・フィリピン・4年)」

「日系3世であっても(どこに行っても私は外国人である)子どもは日本人であることに誇りを持って欲しいです。(それに関して誇りを持てる日本人はとても少ないです。たとえ傲慢であっても。)、ペルー人の母親であれば、もっと世界の広い考え、見方など、それに偉大な神の存在に見守られて、どんな困難にも立ち向かえる勇気をもらえることや、人を信じる心や良い友達に恵まれ、人生をエンジョイできることを教えてください。(保3女・母39歳・ペルー・11年)」

( ) は、保育園・幼稚園の別、年齢、性・回答者の続柄、年齢・国籍・滞在年数を表す。

## Column : 11 カ国語で書かれた自由記述から

調査票は、日本語、ふりがなつき日本語、中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、タイ語、カンボジア語、ラオス語、英語の 11 カ国語（12 種類）で配布され、保護者達は母語や日ごろ慣れ親しんでいる言葉で回答した。調査票は、日本語または英語版から各種の言語への翻訳作業を経て作成されたが、回収後は、日本語以外の言葉で書かれた自由記述を日本語に翻訳する作業が行われた。

11 カ国語で書かれた直筆の文章や翻訳された文章を見ると、保護者が母語または使い慣れた言葉で、日ごろ子育てについて感じていることや、日本に対して考えていることを、家族や同じ国の出身の友人などと話をする機会があっても、日本社会に向かって表現する機会が少ないのではないかと感じられた。本調査のそれぞれの自由記述欄に書かれた子育て生活の様子や日本社会、日本人のしつけの仕方や教育に対する意見には、育った文化背景や言語による個性豊かな書き方が見られた。自由記述が、保護者一人ひとりの自分の経験や考えを表現する場となっていたと思われる。

### 1. 個人的状況を語る場としての自由記述

自由記述は、選択式の項目に回答した内容をさらに強調する形で述べているものが多く、「子育て生活の気がかり」の内容が多かった。記述内容を見てみると、繰り返し述べるにとどまらず、個人の置かれている状況を詳しく語っている。例えば、「子どもが大きくなったら日本語しかできない。私は日本語が下手だから、子どもとどのように交流していくのかを心配している。」と述べ、親としてのアイデンティティの置き場を、子どもとの母語の共有に求めている状況が語られている。母語教育の問題一つをとっても、一人ひとりの状況は異なり、自由記述には問題の深さが書かれている。

### 2. 日本社会とつながる場としての自由記述

保護者達は日常的に使い慣れた言葉で、だれかに話したかったことを書き、自分を表現することで、日本の社会とつながれたと感じた人々も多くいたのではないだろうか。それは、家族や同じ国の出身の人とのつながりとは違った、今住んでいる社会とのつながりである。自由記述が保護者達たちにとって、日本社会とつながる場としての役割を果たせていたならば、このような機会をさらに増やしていく必要があるだろう。

### 3. 日本人と外国人が共に、多言語で自由に意見を述べる場の必要性

多文化子育てには、文化的・言語的に背景が異なるということから派生する問題と、同じ環境で生活をしている現代の日本人の保護者が抱えるものと共通する問題とがある。「多文化」とは、日本人の文化をも含めた意味があるので、外国籍の保護者が抱える問題を日本に住む私たちすべての問題として共に考えていくことが大切である。そのためには、日本人と外国人が共に、多言語で自由に意見を述べる場が必要になってくる。